

# 外国語としての日本語学習と研究について — 用言や文の構造を中心に —

姚 宇 龍

Learning and Studying Japanese as a Foreign Language

Yulong YAO

## はじめに

一つの言語を母国語として習得する場合と外国語として習得する場合のアクセス方法には根本的な違いがある。人間は生まれた時から一つの言語環境の中に生きている。しかもほとんどの人間は先ず母国語を言語として覚えなければならない。生まれた子供は、すぐその親の言語環境に置かれ、色々な日常生活場面で親の喋っている言葉を聞かされたり、無意識的に真似したりしているうちに母国語を身に付けた。もっと正確に言うと、母国語に熟れたのである。このように熟れた母国語は知識というより、技能といった方がもっと正確ではないかと思われる。母国語が一種の日常会話の技能として身に付くまで短くても5、6年はかかる。高度な会話能力や作文能力が身に付くまでは10年ないし20年以上はかかる。

一般的に言うと、私たちは外国語を勉強したい時、既に成人になっている。たとえまだ成人になっても、母国語を勉強する時と同じように毎日親の喋っている外国語を聞かされたり、真似したりするような環境には恵まれないのが実情である。しかも、多くの人にとって10年ないし20年以上をかけて外国語を習得することは、時間的には非現実的である。外国語を勉強しようと思う時、それを短い期間に能率よく習得する方法を考えざるをえなくなる。つまり、母国語を習得する場合と違うアクセス方法で臨まなくてはならないことである。しかも、勉強する人より教える人の方がもっとその点に留意しなければならない。日本語を勉強している外国人も教える側もこの問題に直面している。しかし、残念なことに、現在使われている日本語の教科書は内容が綿密に編纂されているにもかかわらず、その内容の内在的な関連性の表示は不十分としか言いようがない。文の成分や構造、文の成立に関わる個々の成分の相関関係や文の中核としての用言の活用システムなどの内容はほとんど見当たらない。日本語らしい日本語の伝授に工夫するのが確かに大切だが、文を統括するシステムの伝授を怠ると、教育効果や学習効果に限界がある。外国語としての日本語を勉強する時、まずその基礎たるものをたくさんの練習の積み重ねによって身に付けさせるのは大事だが、その個々の基礎知識の関連性及び個々の基礎知識がそれぞれこの外国語全般の中でどのような役割を果たしているか、どのような位地を占めているか、ということの解明に力を入れることはもっと大事ではないか。

外国語を勉強する時、ただ練習を繰り返すだけでは、進歩が見られるものの、応用能力の早期養

成は期待できない。

以上のようなことを考えて外国人に初級や中級程度の日本語を教える時、用言の活用法、品詞、文の成分、単文、複文、主節、従属節と言った日本語の文法構造の基本も説明するのが望ましい。

## 一、日本語学習における用言の重要性

用言は日本語特有のもので、動詞、形容詞（い形容詞）、形容動詞（な形容詞）、助動詞などを含む。用言は文の構成に欠かせない中心的な役割を果たす品詞である。

### 1、用言の活用

用言は日本語の特有概念で、動詞、助動詞、形容詞、形容動詞の総称であるが、それらの用言は語尾変化といったそれぞれ独特な活用法がある。それだけに、初心者は学習の最初の段階でなかなかそれを身に付けることができない。しかし、初心者の段階でそれを完全に身に付けないと、中級や上級段階に入ったら、もう全般的に勉強する機会も得られないし、ミスの連発で恥を掻く羽目になる。一部の外国人は数年間も日本語を勉強したにもかかわらず、まだ用言特に動詞の活用を完全にマスターできない。動詞の活用は難しいように見えるが、ちゃんとした体系と法則がある。日本語を教える時、この体系と法則を説明するか否かは直接に学生の学習効果を左右するのである。用言の活用による語尾変化は多種多様だが、それぞれはちゃんとした相関関係があり、一つの活用系統図に収まっている。その活用系統図を把握し、身に付けると用言の正確な運用ができる。ほとんどの日本語の教科書では、用言の活用結果に関する内容はいっぱい書かれているが、その内在的関連性に欠ける断片的なものが割と多く、言わば個々の練習による生徒の実践を重んじているが、全体性、勉強の指針としての理論の提示を軽んじている。用言は動詞、助動詞、形容詞（い形容詞）、形容動詞（な形容詞）を含むが、動詞の活用が日本語用言活用の大きなウェートを占めているので、ここで主に動詞の活用について論じたい。

#### 1) 動詞の活用形と動詞活用の文法的性質

動詞の活用は日本語の用言活用の主たるものである。動詞活用の文法的性質とは、動詞は何のために活用するか、つまり活用の目的を言うことである。動詞の活用形は、動詞が使用目的に応じて活用される時の形式のことである。その活用形と文法的性質は次の6種類がある。

##### ①未然形

未然形は動詞活用形の一つで、その後ろに否定助動詞、使役助動詞、受身助動詞、可能助動詞、推量助動詞を接続にする場合に使われる。未然形は否定形と推量形に分けられる五段動詞、一段動詞、サ変動詞、カ変動詞の未然形の語尾変化方法が違う。五段動詞の未然形の語尾の仮名はそれぞれア行（否定形の場合）とオ行（推量形の場合）にある。一段動詞には上一段動詞と下一段動詞の2種類がある。上一段動詞の未然形の語尾の仮名は全部イ行にあり、下一段動詞の未然形の語尾の仮名は全部エ行にある。

##### ②連用形

連用形は動詞活用形の一つで、その後ろに他の用言が接続したり、文が中止になったりする場合に使われる。連用形は動詞の6種の活用形の中で一番よく使われている。日本語を勉強する外国人が入門段階で連用形を完全にマスターすることは中級や上級に上がる時の土台となる。動詞の連用

形の後ろに用言がつく場合、「て」を必要とするケースもあるし、直接に用言がつくケースもある。また、動詞の連用形は直接にその後の用言にかかるケースもあれば、「て」を二つの用言の間に介在させたり、「たら」、「ても」、「ながら」などの接続助詞を二つの文や短文の間に介在させたりするケースもある。

### ③終止形

終止形は、文字の形式から見れば辞書形と全く同じだが、文法的な性質は全然違う。終止形は動詞活用形の一種で、文字どおり、文が終止する時に使われる動詞の活用形である。一方、辞書形という概念はその単語が辞書に載っているものと同じ外形だということを言っている。また、留意すべき点として、動詞の終止形は必ずしも形式的に辞書形のまま使われるとは限らない。辞書形の形となっている終止形は現在形の肯定形に限るのである。現在形の否定形、過去形、過去形の否定形、現在進行形及びその否定形、過去進行形及びその否定形などは既に形式的にも動詞の辞書形でなくなり、動詞の活用形に助動詞が接続した結果となった。しかし、そう言う場合、形成した総合用言の語尾の「いる」、「た」、「ない」等の助動詞は辞書形である。終止形のもう一つの注意すべきパターンがある。それは終止形に「と」が付く補語として使われる場合である。例えば、「私は、彼は来ると思う。」

### ④連体形

連体形は終止形と同様その形式から見れば辞書形と全く同じだが、文法的な性質が全然違う。連体形は動詞の活用の一形態で、辞書形は動詞の活用形式ではない。現在の日本語の教科書では、終止形と連体形のことを辞書形と言っている。それは妥当でないといしか言いようがない。というのは、終止形、連体形、辞書形の三者の形が一致するにもかかわらず、終止形と連体形の文法的な意味と接続の方法は全然違うからである。終止形は、動詞が終止する時に使われるのに対して、連体形は、動詞が連体修飾の時に使われ、終止しない特徴を持っている。

### ⑤假定形

假定形は動詞が假定表現の時に使われる活用形で、その後ろに「ば」という接続助詞を付ける必要がある。動詞の假定形は複文の中の連用修飾節として使われることが多い。

### ⑥命令形

動詞を命令形に活用すれば、命令表現ができる。その後ろに助詞は必要でない。動詞の六つの活用形の中で一番簡単である。

## 2) 動詞の語尾変化の違いによる動詞の分類

動詞の活用による語尾変化の形式は、動詞が上記六つのケースに応じて活用する方法を言うことである。

上記の未然形、連用形、終止形、連体形、假定形と命令形という六つの活用形はすべての動詞に適用できる。しかし、一口に動詞の活用と言っても、動詞の種類によってはその語尾変化の方法が違う。したがって、動詞の活用を教える前に動詞の種類とその語尾変化の方法と特徴を解説しなければならない。残念なことに初心者向けの日本語教科書では動詞の種類を例示しているものの、各種類の動詞の分け方とその活用方法の内在的な本質に少しも触れていない。例えば次のように分けている。

Iグループ	IIグループ	IIIグループ
い ます	e ます	し ます
か きます	ね ます	べんきょう します
き きます	で ます	けっこん します
はたら きます	たべ ます	かいもの します
い きます	あ げ ます	しょくじ します
	か け ます	さんぽ します
およ ぎ ます	つ け ます	コピー します
いそ ぎ ます	あ げ ます	
	み せ ます	
の みます	おしえ ます	
よ みます	むかえ ます	
やす みます	つかれ ます	
	しめ ます	
あそび ます	とめ ます	
よび ます	はじめ ます	
と り ます	i ます	ぎ ます
き り ます	み ます	もって きます
かえ り ます	い ます	つれて きます
おわ り ます	お ぎ ます	
おく り ます	か り ます	
わか り ます		
	お り ます	
ま ち ます	あ び ます	
た ち ます	で きます	
	た り ます	
か い ます		
す い ます		
あ い ます		
な ら い ます		
も ら い ます		
か し ます		
だ し ます		
は な し ます		

『みんなの日本語初級 I 文型練習帳』より

上記の動詞の分け方では、動詞を三つのグループに分けている。それぞれのグループに名前がなく、Iグループ、IIグループ、IIIグループと数字で分けている。それだと、学生はなぜこれらの動詞を3グループに分類するか、なぜ、「かきます」、「ききます」などはIグループに帰属させるか、

なぜ「ねます」、「でます」などの動詞をⅡグループに帰属させるか、なぜ「します」、「きます」などの動詞をⅢグループに帰属させるか、その理由が分からないまま、読んだり、暗誦したりする。分け方の基準が分からないグループ分けは、学習効果の期待できないやり方である。学生は教科書に羅列されているそれらのグループの動詞を全部覚えても、このグループ分けの基準を示さなかったら、教科書に出ていないその他のすべての動詞を自分でグループ分けする方法を身に付けることができない。何千何万もの動詞の分類を全部教科書に載せることはできないし、学生も何千何万ものグループ分け後の単語を覚えられない以上、教科書に示すべきなのはその分け方と基準なのである。教科書に示している例はその分け方と基準によって応用した模範にすぎない。

一つの言語を勉強するのに単語をできるだけ多く覚えた方がいい。しかし、個々の動詞の六つの活用形をいちいち覚える必要はない。活用の方法や基準を知識として覚え、更に練習によって熟練

#### (1) 五段動詞の変格活用 (例：読む)

	読 む	活用例
未然形	読 ま・も	～ない、う、
連用形	読 み	～ます、～たい
終止形	読 む	～む。
連体形	読 む	～む人
假定形	読 め	～めば
命令形	読 め	～め

度を高めれば、いつでも、どの動詞もどの活用形も正しく運用できるのである。

上記の「読む」という動詞が活用変化した後の語尾はそれぞれ「ま、み、む、む、め、め、も」なので、ちょうど五十音図のあいうえおの五段を全部使っている。それで五段動詞と定義されている。このような五段動詞は数多く存在している。「会う」、「書く」、「話す」、「立つ」、「呼ぶ」、「泳ぐ」、「起こる」などもこの類に属する。五段動詞のすべての活用は全部上記の図表で対応できる。

#### (2) 一段動詞、サ変動詞、カ変動詞の変格活用 (例：教える、する、来る)

	一段動詞		サ変動詞		カ変動詞	
	語尾活用	接続例	語尾活用	接続例	語尾活用	接続例
未然形	教え	～えない	さ・し・せ	させる	こ	こない
連用形	教え	～えます	し	します	き	きたい
終止形	教える	～える。	する	する。	くる	くる。
連体形	教える	～える人	する	する人	くる	くる人
假定形	教えれ	～えれば	すれ	すれば	くれ	くれば
命令形	教えよ	～えよ	せよ	せよ	こい	こい
	教える	～えろ	しろ	しろ		

上記の図表は覚えやすいだけでなく、六つの語尾形態の文法的な意味も明示している。

上記の五段動詞、一段動詞、サ変動詞、カ変動詞の活用法は日本語文法と日本語の基本にもかかわらず、国語の教科書では特に取り入れられていない。それもそのはず、日本人が、小学校に入った時、動詞の未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形を全然知らなくてもそれらの活用ができるので、国語教育の初期段階で、それらの内容は教科書の中に取り入れられなくていいから

である。

しかし、外国人向けの日本語の教科書にも、動詞活用を説明する際、上記の五段動詞、一段動詞、サ変動詞、カ変動詞も、それらの4種類の動詞の未然形、連用形、終止形、連体形、假定形と命令形という六つの形態も取り入れられず、敢えて「ます形」、「て形」、「た形」、「ない形」、「辞書形」等の用語と概念を使っている。そのような用語と概念はそれぞれの文法的な本質に一切触れていない。つまりなんで「ます形」、「て形」、「た形」、「ない形」、「辞書形」になったかという動詞の活用変化過程や理由や理屈を説明せず、ただ動詞活用変化の結果を幾つか羅列しているだけである。日本語を勉強している外国人に一番必要なのは、他人が動詞の活用をしてくれた後の言語形式のまる暗記ではなく、自分でも動詞の活用をすることができる方法や理屈である。日本人は十何歳になった時、たとえ、「ます形」、「て形」、「た形」、「ない形」、「辞書形」などの活用変化結果の名称や未然形、連用形、終止形、連体形、假定形、命令形などと言った文法的な本質を知らなくても、これまで長い年月の中で、何千もの動詞に出会い、その都度、その都度それらの用言の具体的な表現形式や活用例を経験してきたので、動詞の活用を既に身に付けている。一方、日本語を外国語として勉強する初心者には、最初の短い期間のなかで、何千もの動詞と出会うことはまずあり得ない。何千ないし何万もの動詞の「ます形」、「て形」、「た形」、「ない形」、「辞書形」を見たことも、聞いたことも、話したことも勿論あり得ない。いわゆる「ます形」は、ただ動詞の連用形に「ます」を付けるという動詞活用の結果だけなのである。教科書に何十もの、動詞の連用形と「ます」の組み合わせを羅列することで、生徒に「ます形」を覚えさせようという目的だろう。その一方、たとえ生徒は、教科書に羅列されている「教えます」、「食べます」、「飲みます」、「読みます」、「勉強します」、「置きます」等の「ます形」を全部身に付けても、「ます」をそれ以外の動詞に接続する時、必ずしも正しく表現できるとは限らない。しかし、もし、動詞活用の法則、方法が身に付いたら、新しい動詞と出会うたびに、自分でも「ます形」や「ない形」や、「て形」等の表現ができる。例えば、「ほったらかす」とか、「誑かす」などの動詞は日本語勉強の初級や中級段階では、教科書の中に出現することがないので、その「ます形」や「ない形」の勉強もできない。しかし、「ます形」や「ない形」の構成方法さえ知っていれば、それはすぐできる。「ます」は動詞の連用形に接続する助動詞であり、「ほったらかす」と「誑かす」の連用形は、それぞれ「ほったらかし」と「誑かし」で、それらに「ます」が接続すると、「ほったらかします」と「誑かします」になる。

日本語の動詞述語文の丁寧体は、動詞連用形に「ます」が付くものである。「ます形」は動詞の連用形という語尾活用の代表的な存在だが、「連用形」と「ます形」は同一のものではない。連用形に「ます」だけでなく、接続助詞「て」、「たり」、「ながら」なども、助動詞「た」、「たい」、「たがる」なども接続できる。

## 2、動詞の活用形（語尾変化の結果）と動詞活用結果の違い

動詞は六つの活用形があるが、連用形と終止形と連体形は使われる頻度が一番高い。

### 1) 動詞の連用形（語尾変化の結果）と動詞の連用結果の違い

動詞の連用形は、動詞がその後の用言に接続するために行うその自身の語尾変化つまり動詞活用形の一つである。その一方動詞の連用結果とは、動詞が語尾変化した活用形に他の動詞、助動詞、動詞を接続するための接続助詞が付く結果である。例えば、用言「話す」という動詞の連用形は「話し」で、その語尾変化後の連用形「話し」に用言動詞「合う」が付くことによって、「話し合う」という複合動詞になり、その「話し」に敬語助動詞「ます」が接続したら、「話します」という「ます体」（丁寧体）になる。したがって、いわゆる「ます形」は、実際は敬語の一種であり、助動

詞「ます」が動詞の連用形に接続することによって成立し、正確に言うと、それは「ます体」である。「ます形」は動詞の活用形式や方法ではなく、動詞の活用による語尾変化の結果の連用形と「ます」の共同運用による結果である。「ます」だけでは、なんの実質的な意味もないが、動詞の連用形に接続して初めてその敬語的な意味合いが表れる。この文法的な実情から見れば、日本語には、「ます形」が存在しないのである。「ます形」という言い方を提起し、それを過度に強調することは、動詞の活用や動詞の連用形に対する全般的な把握や正しい運用に支障を来しかねない。というのは、動詞の連用形には、「ます」だけではなく、「て」、「ている」、「である」、「ておく」、「た」、「ながら」、「たい」なども接続できるからである。しかも、「て」や「た」等は、五段動詞の連用形に接続する場合、それぞれ「イ音便」、「促音便」、「撥音便」が起こる。上記の事実から分かるように、「ます形」は動詞活用における普遍的な意味はない一方、動詞の活用、その場合、動詞の連用形の運用にさえ習熟できれば、動詞と「ます」、「て」、「た」、「ながら」などの、連用形が必要とするあらゆる後続詞の接続を正しく表現できるに違いない。

前記のグループの表を動詞の活用原理をはっきりさせる分け方で変えると次のように改善できる。

#### 四大動詞の連用形

五 段 動 詞	一 段 動 詞	サ 変 動 詞
イ音便の場合	上 一 段 動 詞	する⇒し
書く⇒き ⇒い		勉強する⇒し
泳ぐ⇒ぎ ⇒い	起きる⇒き	
促音便の場合		
立つ⇒ち ⇒っ		
分かる⇒り ⇒っ	下 一 段 動 詞	カ 変 動 詞
習う⇒い ⇒っ		来る⇒き
	教える⇒え	持って来る⇒き
撥音便の場合		
しぬ⇒に ⇒ん		
遊ぶ⇒び ⇒ん		
飲む⇒み ⇒ん		

## 2) 動詞の連体形、終止形といった語尾変化の結果とそれらの応用

### ①連体形、終止形と辞書形の異同

#### イ、形式的な一致

日本語の辞書形と終止形と連体形は形式がまったく同じせいか、その三者が混同され、現在の日本語の教科書では辞書形と呼ばれている。

#### ロ、文法上における実質的な違い

しかし、辞書形と終止形と連体形はそれぞれ違う性質を持っている。第一、辞書形は辞書に載っている、使われる前の原形で、終止形と連体形は動詞が文法に従って活用形になった時の形である。第二、終止形と連体形は動詞の活用形という点と形から見れば同じであるが、その使い道と接続方

法が全然違う。現在の日本語の教科書では、それら三者の間に存在している上記二つの違いが無視され、辞書形という概念に統一されている。それは外国人の日本語勉強に決していい役割を果たすものではない。というのは、混乱をもたらす可能性もあるし、難しい複文の勉強に無益なのである。

## ②終止形の応用

終止形はほとんどの場合、文末に使われる。しかし、複文においては、文中に使われることも可能である。それは補語として使われる時である。文末に使われた時も、文中に使われた時も、必ず現在形や肯定形とは限らず、過去形や否定形や進行形でもいい。また、終止形に終助詞を使ってもいい。

### イ、文末で終止する場合

王さんは学生である。  
家族はニューヨークにいる。  
私は子供におもちゃを買った。  
息子さんはいつも一人で宿題をしますか。

### ロ、文中にある場合

先生は、再来週試験があると言いました。  
私は昨日運転中、隣の車の運転手がカーナビでテレビを見ながら、走っているのに気付きました。

## ③連体形の応用

助動詞、動詞の連体形は連体修飾語として文の中で使われるが、一つの単語でもいいし、一つの短文又は一つの単文でもいい。また、連体形が実際に使われた時、必ず現在形や肯定形とは限らなく、過去形や否定形でもいい。

### イ、一つの単語の場合

食べる人

### ロ、一つの短文の場合

明日中国に行く人 アルバイトをしない人

### ハ、一つの単文の場合

彼が書いた小説  
私が食べたくない魚

## 二、日本語の文の構造

中国語、日本語、英語、どの言語にも必ず文の成分や単文複文という文法的な仕組みがある。しかし、日々これらの内容を論じているのが語学専門家で、普段人々はめったにそれに触れない。

### 1、文の構成要素

#### 1) 品詞

品詞とはすべての単語を文法上の性質によって分類したものである。日本語の品詞には名詞、動



詞、副詞、形容詞、数詞、助詞などがある。各言語には、それぞれの品詞がある。同じ品詞でも適応する文法によっては、それぞれ違う成分になることがある。

## 2) 文の成分

言語学的には文の成分は、品詞（単語）が文法にしたがって文の一部を構成するものである。各言語によって文の成分及びその性質に多少の違いが見られるが、だいたい、主語、述語、目的語、連体修飾語、連用修飾語、補語などがある。日本語は上記の六つの成分のほかに、さらに対象語、並立語と独立語がある。初級レベルの日本語教科書で教える時から、それらの知識の伝授に心掛ける必要があるのではないかと思う。

主語と述語は文を構成するための不可欠な成分であり、目的語と補語は不可欠な成分ではないが、目的語や補語が使われることでその分だけ伝わる内容が多くなる。

連体修飾語と連用修飾語も文が成立する上で不可欠なものではないが、意思伝達の正確さの点から言えば、かなり重要な成分で、不可欠な存在である。

### ①主語

主語は文が表す事態や動きや状態等の主体となる成分である。

李さんは先生です。            学校に食堂がある。  
赤ちゃんが泣いている。    昨日は寒かった。

### ②述語

述語は主語の動作、状況、性質などを表す語彙的意味を担い、他の諸成分をまとめあげ文の形成に中心的な役割を果たす成分である。動詞だけでなく、形容詞、形容動詞、動詞と一緒に使う助動詞も述語となれる。前記①の例文の中の「先生です」、「ある」、「泣いている」、「寒かった」は述語である。

### ③目的語

目的語は主語の動作の対象、内容を表す成分である。それを補語の類に帰属させる学者もいるが、その性質から見てここで敢えて目的語として扱う。

私は木村さんに花をあげます。            『みんなの日本語・初級 I 本冊』 P52  
明日大阪城公園で花見をします。        『みんなの日本語・初級 I 本冊』 P53

### ④連体修飾語

連体修飾語は各品詞の連体形で表すのが日本語の特徴である。連体形は現在形しかも肯定の場合には辞書に載っている時と全く同じ形式である。しかし、それで連体形のことを辞書形と同一視するのが大間違いで、初心者には混乱をもたらしかねない。というのは、連体修飾語として使われる用言の連体形は必ず現在形や肯定の場合とは限らない。現在進行形も、否定形も、過去形もある。また、動詞と自動詞と一緒に使われる場合もある。

日本語の連体修飾語には大体次のようなパターンがある。

- a, 体言（名詞、数詞、代名詞）の + 体言（名詞、数詞、代名詞）  
先生の研究室

b, 形容詞の連体形 + 体言 (名詞, 数詞, 代名詞)

美しい国 暑い南国

c, 形容動詞 (な形容詞) の連体形 + 体言 (名詞, 数詞, 代名詞)

綺麗な環境 静かな町

d, 動詞 (助動詞も含む) の連体形 + 体言 (名詞, 数詞, 代名詞)

イ, 一つの動詞が連体修飾語となる場合:

来たい人 飲む人

ロ, 一つの動詞を含む短文の場合:

東京に行きたい人 来年卒業する学生 昼ご飯を食べた人

ハ, 動詞を含む文の場合:

学生が書いた手紙 両親が送ってくれた生活費

e, 連体詞

こんな人 このようなやり方

### ⑤連用修飾語

連用修飾語は文字通り用言を修飾する成分で, 述語及び用言が表現する事態の発生場所, 時刻, 時間, 原因, 程度, 状況, 条件, 目的などを追加的に説明する。

連用修飾語としてよく使われる品詞及びその表現形式は大体次のようである。

イ, 数詞+に	(時刻)	私は7時に起きた。
ロ, 数詞	(数量)	彼は日本酒を一口飲んだ。
ハ, 名詞+に	(時間)	王さんは6月に結婚する。
ニ, 名詞+で	(場所)	私は居酒屋でアルバイトをしている。
ホ, 名詞+で	(原因)	高速道路が濃霧で閉鎖された。
ヘ, 副詞	(程度)	今日はとても暑い。
ト, 形容詞 (連用形) (程度)		彼の背中を軽く叩いてください。
チ, 形容動詞 (連用形)		春田先生は学生に熱心に日本語を教える。
リ, 擬声語・擬態語		大地震で建物がコナゴナに崩れている。

連体修飾語が直接にその後ろの体言にかかるのに対して, 連用修飾語は必ずしも用言の直前に置くとは限らず, 例文「チ」と「リ」のように「熱心に」と「大地震で」は, それが修飾する用言「教える」と「崩れている」とのあいだに「日本語を」, 「建物がコナゴナに」があり, 両者は離れている。

連用修飾語の定義と本質を正確に理解すれば, それが文中に使われている時意味も正確に把握できる。次の表を分析しよう。

例 文	～ずに	～なくて	～ないで
朝ご飯を食べずに学校へ来てしまった。	○	×	○
ゆうべは寝ずに勉強した。	○	×	○
友達ができなくて寂しいです。	△	○	?
雨で富士山が見えなくて残念です。	△	○	?
切符が買えなくて行けなかった。	×	○	×
電話がかからなくて連絡できなかった。	×	○	×

『日本語中級J301』より

上の表の中の例文では、その動詞の連用形に「ずに」、「なくて」、「ないで」を使っていいかどうか、を判断するために、「○」、「×」等で示している。つまり、どっちを使ったら正解、どっちを使ったら不正解という判断の結果を示しているが、なぜ正しいか、なぜ正しくないかを説明しなかった。

文の成分の角度から理論的に言えば、原因や判断基準がはっきりとしている。「ずに」、「ないで」は意思動詞の連用形に接続し、それらで構成する短文や単文は連用修飾語としてその次に表れる意志動詞の状況を修飾しているのである。「なくて」は一般的に非意志動詞の連用形に接続し、その次に表れる非意志動詞や形容詞などの述語の客観的な原因を説明するものである。前後二つの用言の間には因果関係があるものの、両者とも述語という成分を充当している。

上記の例から分かるように、文の成分という知識や理論を身に付ければ、難しい使い方も基準一つですぐ正しくしかも分かりやすくなる。

## ⑥補語

補語とは、述語の表す動きや状態や関係などの成立にとって非中心的に参画する構成要素、言いかえれば、述語が必須的に要求する要素のうち、動きや関係などの体現主として表層に実現される要素以外の要素である。(『日本語文法研究序説P177』)

補語は大体次のようなパターンがある。

- |           |                        |
|-----------|------------------------|
| イ、体現＋へ    | 私はこれから会社へ戻ります。         |
| ロ、体現＋に    | 私は日本人に少林寺拳法を教えます。      |
| ハ、体現＋と    | ロシアはアメリカと核兵器削減条約を締結した。 |
| ニ、体現＋から   | 私は李さんからお金を借りた。         |
| ホ、体現＋を    | 私は毎日公園を散歩します。          |
| ヘ、用言終止形＋と | 先生は来ないと言いました。          |

## ⑦対象語

対象語は日本語特有な成分である。「が」という助詞が使われるので、形式的には、主語っぽいですが、実質的には目的語や補語の意味合いがある。

私は春田先生が好きだ。 私はお金が欲しい。 私は家族が恋しい。

## 2. 単文

単文は主述構造が1個しかないもので、至って簡単である。文が成立できる最低条件は、その文に主語と述語という成分があることであるが、主語二つ、述語一つの場合(並立主語)も、主語一つ、述語二つの場合(並立述語)も単文である。主語と述語のほかに、目的語、連体修飾語、連用修飾

語、補語等の成分がある文も単文である。しかも、それらの四つの成分はそれぞれ一つしかないとは限らない。

### 3、複文

主語と述語からできる主述構造が一つあれば文が成り立つ。文の構造から見れば、主述構造が一つしかない文は単式構造の文で、つまり単文である。それはつまり文が成立するための最低条件を満たす文である。しかし、私たちが書いた文は必ずしも単文とは限らず、むしろ二つ以上の主述構造を持つ複式構造の文つまり複文の方が多い。複文は二つ以上の主述構造（単文）が文法に従って一つの文にまとまるものである。複文の主述構造間の関わりや排列が種々様々であるが、その方法は文法上のルールに基づいているのである。その意味で言うと複文の一番大きな特徴は何と言っても一つの単語の代わりに、一つの短文（主語が省略されている場合の主述構造）か主述構造（主語と述語で構成される従属節）が文の成分となることである。単文の場合、主語がないと文が成り立たない。しかし複文の場合、従属節に主語がないと形式的には短文にしか見えないが、主語が省略されているのなら、実質的な主述構造と見なすので、文全体はやはり二つ以上の主述構造を持つ複文と言える。

#### 1) 複文の構造を勉強する意味

いうまでもなく、複文は単文より作りにくいし、読み辛い。日本語を外国語として勉強する初心者にとってなお更難しい。いかがすれば複文を習得できるか、それは学生が考える問題だが、一方、いかがすれば複文を分かりやすく説明して習得させるか、それは先生がやるべきことである。複文は種々様々なパターンがあり、総じて言うと、中級以上の程度に入るが、わりと短く、しかも単純な複文もある。そのゆえか、中級レベルは勿論、初級レベルの日本語教科書にも所々複文が出ている。ただ残念なことに、それに対する構造上の説明や解析はない。

学生がたくさん練習することによってそのうちに自ずと身に付くだろうという練習至上主義的なやり方は、確かに外国人学生が練習する分だけ上達するが、一分の努力が一分の成果をもたらすに過ぎない。できるだけ短い期間で日本語を上級まで習得しなければならないという至上命題を課せられている外国人は、一分の努力でそれ以上の成果を獲得できないと、短い期間で上級まで日本語を習得することができない。中級日本語は初級日本語と比べると、ただ文がちょっと長くて複雑なだけで、同じく上級日本語は中級日本語と比べると、ただ文がもっと長くてもっと複雑なだけである。初級から上級までかなり長い道のりで、前進しなければならないが、遠い道より近道の方が良いし、徒歩よりクルマの方が早く着く。外国人の日本語学習において、たくさん練習をすると同時に、文の成分や複文の構造も理論的に勉強することは、最終目的の早期達成のための近道である。初級日本語能力がしっかりと身に付いている人は複文の知識や理論を覚えれば、中級ないし上級の日本語能力に早急に達することができる。

#### 2) 複文の主節

複文は二つ以上の主述構造（文）から構成され、個々の主述構造の相互関係は主従関係となり、その主幹となる部分は主節であり、連体修飾節や連用修飾節等はそれに従属するものである。主述構造が二つしかない複文には、主節と従属節が一つずつある。主述構造が二つ以上もある場合、絶対的な主節は一つしかないが、相対的な主節は二つ以上の場合もありうる。

帰国留学生の多くが何らかの形で今なお日本とのつながりを維持していることは、別の側面からも裏付けられている。

『日本語中級 J 501』

### 3) 複文の従属節

複文の従属節は、複文全体の中で一つの主述構造を持つ相対的に独立している文が一つの単語の代わりに成分を充当している節である。複文に主述構造（単文）が三つ以上もある場合、従属節は相対的なものになり、相互関係によっては複文の中で主節の従属節でありながら、それ自身が一つの従属節を持っているので、主節の役割も果たしているのである。また、日本語における文の成分は主に主語、述語、目的語、連体修飾語、連用修飾語（状況語）、補語、対象語がある。単語だけでなく、一つの文も複文の中で文の成分を充当することができるので、複文の従属節は、主語（従属）節、述語（従属）節、目的語（従属）節、連体修飾語（従属）節、連用修飾語（従属）節、保護（従属）節、対象語（従属）節がある。

#### ①主語節

主語節とは、一つの体言（名詞、代名詞、数詞）の代わりに、それらのどれかを含む一つの単文または従属節が文の主語となる成分のことである。

短文／従属節のは／のが+述語

一人でこの荷物を運ぶのは無理です。

彼女と話すのは、楽しいです。

#### ②述語節

述語節は、一つの用言（形容詞、形容動詞）の代わりに、それらのどれかを含む従属節が述語となる成分のことである。

主語は+述語節（体言が+（形容詞／形容動詞）

ウサギは耳が長いです。

象は鼻が長いです。

『みんなの日本語初級Ⅰ・文型練習帳』P76

#### ③目的語節

目的語節は、一つの体言（名詞、代名詞、数詞）の代わりに、一つの短文又は従属節が目的語となる成分のことである。

主語は/が+短文／従属節のを+述語（他動詞）

私は今日辞書を持ってくるのを忘れました。

買い物に行きましたが、卵を買うのを忘れました。

『みんなの日本語・初級Ⅱ本冊』P38

#### ④連体修飾語節

連体修飾語節は、一つの用言（動詞、形容詞、形容動詞）の代わりに、それらのどれかを含む短文又は従属節が連体修飾語となる成分のことである。連体修飾語節の後ろについてくるものは体言に限っている。

短文／従属節（連体形）+主語+目的語+述語

私が欲しい物はパソコンです。

木村さんが会う人は佐藤さんです。

『みんなの日本語・初級Ⅰ文型練習帳』P114

主語は/が+短文／従属節（連体形）+目的語+述語

私は学生がくれたお菓子を食べた。

彼は私が作った料理を美味しく食べた。

主語は／が+短文／従属節（連体形）+名詞述語

これは私が買った本です。

ここは佐藤さんがよく行く喫茶店です。

### ⑤連用修飾語節

連用修飾語節は、一つの副詞の代わりに、一つの短文又は従属節が連用修飾語となる成分である。

主語は／が+目的語+短文／従属節（連用形+）+述語

私は、皆がお腹いっぱい食べられるように餃子を600個も作った。

しかし、連用修飾語節の圧倒的に多いパターンは次のようなものである。

単文／従属節（連用形）、主語は／が（省略あり）+目的語+述語

彼がまだ知らないうちに、（私たちは）速く出かけましょう。

今すぐ出かけると、9時10分の電車に間に合う。

日本に着いたら、すぐ電話しなさい。

地震が発生したため、新幹線が止まった。

雨も降っているし、風も強いから、今日の運動会を止めましょう。

あなたがいくら説明しても、彼は納得しないでしょう。

困難がいっぱい横たわっているけど、やるしかない。

雨が降っているので、遠足は中止となった。

（従属節主語が）この小説を読むなら、（主節主語は）貸してあげるよ。

### ⑥補語節

主語は／が+短文／従属節（終止形）と+動詞

サントスさんは日本は物価が高いと言いました。『みんなの日本語初級 I・文型練習帳』 P110

私は今晚雨が降ると思います。『みんなの日本語初級 I・文型練習帳』 P109

日本は高いビルが多いと思います。『みんなの日本語初級 I・文型練習帳』 P109

ミラーさんは着物をかわないと思います。高いですから。

『みんなの日本語初級 I・文型練習帳』 P109

### ⑦対象語節

対象語が日本語の特有の文の成分なので、一つの用言（動詞、形容詞、形容動詞）の代わりに、それらのどれかを含む短文又は従属節が主語となる成分のことである。

主語は／が+短文／従属節（終止形）述語

私は花を育てるのが好きです。

彼は子供を褒めるのが好きです。

## 4) 複文における各種従属節の重要性の違い

上記七つの節は、どれも主語に対して従属的な存在に位置する従属節という同一性がある。しかし、複文の成立に欠かせるか否かの点では、違う性質がある。複文の中の主語節や述語節を取ってしまつたら、文が成立しなくなるのに対して、連体修飾語節と連用修飾語節はなくても文としては

成り立つのである。

目的語節と補語節と対象語節は文の成立に補助的な役割を果たしているの、なくても文は成立するが、あれば、文の内容がその分だけ豊富になる。

### 5) 複文の階層及び階層の間の主従関係

多くの日本語の論文では、層という文法用語を使っている。例えば、

彼は「誘わ——れ——てい——た——みたいだ——ね。」

語 幹      ボイス      アスペクト      テンス      事態に対するムード      聞き手に対するムード

『複文の研究 (下)』仁田義雄編

しかし、明らかにそれは述語の活用によってできた複合述語の内部の層である。この論文で提起する層は複文の中の層で、つまり複文の中の主節と従属節の主従関係によってできた階層のことである。

複文の階層及び階層間の主従関係は複文の中の主節と従属節の関係である。一つの主従構造には二つの階層が存在する。二つの主従構造には三つの階層がある。三つの主従構造には四つの階層がある。従属節も単語と同じように文の成分を充当することができるので、従属節と主節の関係を論じる前にまず文における各種の成分の役割を整理しなければならない。主語と述語は文が構成する不可欠な成分で、目的語、補語、対象語は非中心的に参画する追加的要素で、連体修飾語と連用修飾語はその修飾対象を限定したりする付随的な要素である。したがって、主語節、述語節のある複文は包容式複文で、目的語節、補語節、対象語節のある複文は補充式複文で、連体修飾語節、連用修飾語節のある複文は限定式複文である。複文は俗に言う、大きな文の中に小さい文があることである。しかも、この二者を分離させたら、完全に二つの文になるのである。分離したら、との話なので、分離していない複文の中に独立できる文があっても、それらは節としか言えない。その故に、小さい文が大きい文に従属的に存在することから、複文の中の大きい文は主節、小さい文は従属節というのである。

上記の七つの成分の性質から次のような結論が出せる。主語節、述語節のある複文は、その中の主節は主語が欠けているので、従属節がないと文全体が成り立たなくなる。

私が食べたいのは、長崎産のカステラです。網掛け部分は主節の述語である (主語などが無い)

主語 (従属) 節      主      節

王さんは 背が高い。網掛け部分は主語 (述語などが無い)

主 節      述 語 節

原因はとても簡単である。従属節は主節の主語か述語を占めてしまったのである。

目的語節、補語節、対象語節、連体修飾語節、連用修飾語節のある複文は、その中の主節が主語も述語もあるので、上記五つの修飾語のどれがなくても、主節部分が単文になり文として成立できる。

私たちは、連戦主席が大陸を訪問するのを歓迎します。

目 的 語 節

明日は雨が降るだろうねと、子供たちが不安そうに言った。

補 語 節

私は彼が誠実でないのがきらいです。

対 象 語 節

大統領の政敵が経営していた大手資源会社が国税局に3兆円を追徴された。

連 体 修 飾 語 節

マグニチュード4強の地震が発生したため、新幹線が自動的に停まった。

連 用 修 飾 語 節

### ①複文の階層

上記7種類の複文のうち、主節と従属節の間に主従関係が存在するが、二つの階層になっているのが、目的語節、補語節、対象語節、連体修飾語節、連用修飾語節が入っている複文である。説明上の便宜を図るため、上記で複文のことを分析する時、挙げた例文の主従構造（主節と従属節のある構造）が1個しかないものになっている。しかし、私たちは普段、喋ったり書いたりする場合の複文の構造はそんなに簡単なものは少なく、むしろ2層、3層ないし4層以上の物が多くて、しかも複雑に絡んでいるのである。しかし、いくら複雑な複文でも、それを構成するパーツという文節（短文）とか、動詞の語尾変化や活用形や文の成分や構造などの知識はそんなに複雑なものではない。

### ②外国人が日本語複文を勉強し研究する意義

その一番のメリットは、今現在の日本語能力をそれ以上に発揮できることである。私はかつて、日本語学習歴1年ぐらゐの留学生に次の日本語の意味を聞かれた。「それは、ひとたびこちらからお願いごとをすると、恐縮してしまうほど精一杯尽くしてくれることでもわかる」という文である。この文は複文である。初級の勉強が終わって、中級の勉強が始まったばかりの日本語能力を持つ留学生にとって、それはそんなに分かりやすい文とは言えないだろう。しかし、この文を解体して、次のような二つの文にすると、たとえ初級のレベルしかない留学生でも、すぐその意味が分かる。

(主節) それは～ことでもわかる。

ひとたびこちらからお願いごとをすると、恐縮してしまうほど精一杯尽くしてくれる。(従属節)

上記の従属節も複文である。必要であれば、更に分解できる。

なぜ分解したら、意味が読み取れるかの理由は簡単である。初級レベルの文になったから。そうすると、分解する方法を覚えれば、初級レベルの人でも中級ないし上級レベルの日本語が理解できるのである。この方法は、つまり本論文で論じた動詞という用言の活用及び文の成分や構造などの内容である。

先の例文を動詞活用と文の成分などの知識で分析すると、この複文の構造は次のようである。

それは、ひとたびこちらからお願いごとをすると、恐縮してしまうほど精一杯尽くしてくれる

主節の主語 連体修飾語節の連用修飾語節 連体修飾語節の連用修飾語節 連体修飾語節の述語

ことでもわかる

主節の連用修飾語 主節の述語

この複文の中には、絶対主節一つ、従属節兼主節一つ、絶対従属節一つがある。つまり二つの主従構造があり、三つの階層を呈している。この文の絶対主節「それは、～ことでもわかる」は第一階層、「精一杯尽くしてくれる」は従属節兼主節、「ひとたびこちらからお願いごとをすると、恐縮してしまうほど」は連用修飾語節である。「精一杯尽くしてくれる」は「主節の連用修飾語の中の



『こと』の連体修飾（従属）節」であり、その根拠は「くれる」が連体形であるから。それと同時に「精一杯尽くしてくれる」は「ひとたびこちらからお願いごとをすると、（こちらが）恐縮してしまうほど」の主節で、「ひとたびこちらからお願いごとをすると、（こちらが）恐縮してしまうほど」は、「精一杯尽くしてくれる」の連用修飾語節である。根拠はどこにあるかという点、「～してしまうほど」は連用修飾語であるから。

上記の分析で分かるように、複文の基礎を理論的かつ全般的に勉強すれば、どのような複文でも自由自在に分解できるし、復元もできる。

## おわりに

語学は一般的に技能と認識されている。練習すればするほど上手になるということを考えると、まったくその通りである。しかし、それはかなりの時間がかかる。現在一部の学者や先生は外国語の勉強における文法学習の意義を否定している。文法ばかり勉強して、練習しないと外国語の能力が上がるはずがないと言うのである。それはそうである。問題を解決する基本はたくさんの練習と文の成分や文の中心的存在という動詞の活用形や複文の仕組みという理論的な勉強と研究も不可欠である。それは人間で譬えると、両足のことである。車で譬えると、左右の車輪全般のことである。外国語を勉強したり、読んだり、書いたりする時、常に文の構造なども意識して学習すれば、自分の今現在の実力は十二分に発揮できるのである。

## 参考文献

- 『日本語中級 J 301』土岐哲 等 スリーエーネットワーク  
『日本語中級 J 501』土岐哲 等 スリーエーネットワーク  
『みんなの日本語初級 I 本冊』 スリーエーネットワーク  
『みんなの日本語初級 II 本冊』 スリーエーネットワーク  
『みんなの日本語初級 I・文型練習帳』平井悦子 三輪さち子 スリーエーネットワーク  
『みんなの日本語初級 II・文型練習帳』平井悦子 三輪さち子 スリーエーネットワーク  
『日本語文法研究序説』仁田義雄 くろしお出版 1999  
『概説日本語学・日本語教育』清水義昭編 (株)おうふう  
『中級から学ぶ日本語』荒井礼子 等 KENKYUSHA